

San-ai

市村清追悼



土牛園

身近に接した市村三愛会会長

■哀悼をこめて、生前のお姿をしのぶ



リコー	常任監査役	井手 克己
西銀座デパート	専務取締役	中井古満雄
三愛会	常任理事	河合 佐治
リコー	秘書課	福島 信代
リコー	秘書課	斉 藤 穆
リコー	秘書課	星野 健二
三愛会	秘書室	三橋 昌子

*はじめて会ったとき

本誌 みなさんは、お仕事の関係で市村会長の身近に仕えた方々ばかりです。人間としての市村会長の姿を多くの人々に伝えることは意義深いことと思われまので、今日はみなさんの目から見た会長について語っていただきます。まず自己紹介をかね、お会いした第一印象からお願いします。

井手 最初は入社するときで昭和13年です。役員室へ入って島村常務と二人に面接を受けたのですが、社長は37、8歳で若かったせいもあって、精悍そのもの、はきはきしておられた。ぼくは当時文学青年みたいに髪を長くしておったのですが、いきなり「君は何か書いたことがあるか」と言われ、鋭いというか、何か威圧されるような、気性の激しい方という印象をもちましたね。

中井 私は昭和15年だったと思います。北京で会ったのですが、当時私は済南市の次長をしておって、頼まれた資料を渡したあと、ご馳走になったんです。社長は当時理研光学の専務ですから、こちらは堅くなっておると、自分の経歴を話されるんですが、それが上海時代留置場に入れられたとか、保険の勧誘員で苦労された話なんです。普通の人は聞かれても隠したがることを赤裸々に語

り、しかも人の情が暖かく想い出されるところにくると涙を流されるんです。

こんな偉い人がこんな正直なことを言われるのか、この人こそほんとうに立派な人だ。こんな人に使われてみたいと思ったので、「あなたみたいな人に使われるのは幸福ですね」というと「来てもらえんか」ということになり、これが縁となったのです。

河合 私は昭和21年の7月だったと思います。三愛の村上専務から社長にぼくのことを紹介されていたようですが、浅草橋の本社でお目にかかった。いろいろお話しているうち、「君、ぼくの方の陣営にきてつとめる気があるかね」

「お願いできれば幸いです」といったら、即座に決まりました。そのときの感じは大学教授みたいで、非常にやさしい態度でした。

福島 私は昭和19年に旭無線に入社したのですが、会社にはほとんどおみえにならないので、写真で知っている程度でした。その後記念式典や演芸会、慰安旅行などでのお姿を拝見するうち、親しみをおぼえるようになっていました。

28年の4月に旭精密と理研光学が合併になり、秘書室に配属されることになりましたが、いろんな人にうかがうと、短気なところももありだし、



仕事の面ではなかなかきびしいということで、最初の面接のときも、おどおどしたところがあったものと思います。それに気付かれた社長は「いままで旅行なんかに行って、よくわかっているだろう。ぼくはちっともこわくないよ。仕事の上で男の人にはこわいけど、女の人にはやさしいよアハハ…」と大きな声をして笑われたので、私もホッと、精一ぱい努力してお伝えしようと思いました。

星野 私は29年の5月に三愛に入社し、運転業務のほか、たまたま商品管理の手伝をしていたとき、たしか6月頃だったと思いますが、売場へ荷物をおかすついで行くと、ボンと肩をたたく人がいるので、ひょいとうしろを向くとそれが社長です。「しっかりやっているか」「はっ」というわけで、そのとき初めて社長のお顔を拝見したのですが、「元気でやれよ」と激励してくださるんです。

38年4月から社長の運転業務をやることになりましたが、実にききくで、何事もぎくばらんに話していただき、また理解やいたわりも痛いほど感じました。

斉藤 最初は、入社試験の面接でお目にかかりましたが、畏敬の念が一ぱいでした。やはり一ぱん印象にあるのは、秘書課に配属されて、初めて言葉をかけられたときです。まず眼光が鋭かった。

「会社の秘密は絶対に漏らしてはいけない。ただぼく個人のことはかまわんよハハハ……」などと冗談をおっしゃったとき、その鋭い眼光の中にちらっとしたユーモアに溢れたまなざしをみせられたのですが、そのやさしい感じが忘れられませんね。

三橋 私の場合はみなさんとちょっと変わったお会いのしかたなんです。結婚式の仲人をお願いするために、社長宅に伺ったのが38年でした。はじめは社長さんということで、こわい人を想像していたのですが、奥さまと二人で出ていらっしゃった社長は、和服を着てくつろいだ感じだったせいか、こわさは全然ありませんでした。お話するのもやさしく話かけてくださいましたし、あとで会社の方たちのお話もなさって、社員のことをいつも気にかけていらっしゃるのだなあということが、すごく感じられましたわ。

*運動会ではいつも一等

本誌 お若い頃のご様子はいかがですか。

井手 若かったせいもあって、運動にはとても理解があり、やることも好きでしたね。社内で野球大会とか運動会などをやると、率先して出ておられました。

本誌 技倆のほうはどうでした。

井手 何をやってもうまかったですよ。王子の工場で野球大会をやったときなど、若いぼくがのびたのに、社長はかくしゃくとしてホームランを打ち、えらく張り切っておられた。その後運動会などやると、社長は必ず出てくる。短距離の100メートル競走はたいいてい一等をとりましたね。

中井 足は早かったのですね。

福島 演芸会などのときには、講堂の中に敷いたむしろの上であぐらをかき、従業員と一緒に、和気あいあいと過しておられましたね。

中井 私は北京で入社し、すぐ新京の支店長を命ぜられたのですが、あるとき支店にこられ、仕事のことをいろいろ聞かれる。質問がだんだんこまかくなって答えられなくなり、「いや、それは存じません。冬はストーブの灰落としばかりしているので……」というところと「それでいいのだ。支店長が率先して何でもするような支店はあまりよくない」というようなことをいわれる。普通なら「何をしている」と叱られるところなのに、いいほうに解釈して、部下をうまく使われたような感じがしましたね。

井手 いままでこそ宣伝宣伝という時代ですが、社長は昔から宣伝に対して深い関心をもっておられたし、理解もありましたね。

私が入社して、いきなり命ぜられたのが、写真機の宣伝だったんです。費用はかかるし、幹部は宣伝ということにあまり認識がないので、ことごとく辛くあたる。それを救ってくださったのが社長で、おかげで「文芸春秋」からほめられたこともありました。

*強い者には強くでる

河合 明治記念館を結婚式場にするときの話ですから、22年の夏だったと思います。鷹司宮司をはじめ明治神宮の幹部の方々と会議が始まったところ、吉田首相と同名異人の吉田茂さんという非常な有力者が、社長の恩人である大河内さんのことをよく言われぬ。座が白けがちになったので、社長が「河合君、お笑い問答でもやれよ」と言わ

れた。私が余興をやりにかかったところ、吉田さんは「そんなものはやめたまえ」と、とめられた。恩人のことを悪く言われ、部下の余興をとめられた社長は

「何を言うんですか」

「大臣までしたぼくに対して、市村君失礼じゃないか」

「失礼じゃない。あなたのような方が軍需大臣をやったり、厚生大臣をやったから、日本が負けたんだ」

「何んて失礼なことを言う。ぼくは帰る」

「どうぞ帰って下さい」ということになった。ところが、結果はあとで吉田茂さんとは肝胆あいてらす仲となって、結婚式場はできあがったのです。

そのほか日本橋の警察署長や築地の税務署長に失礼なことがあって、お詫びに行ったことを憶えています。要するに、社長の性格として、強い者、強い権力をもった者には、非常に強く出られる。反面、弱い者にはとてもやさしい方でした。

中井 それに決断力が非常に早かったのですね。北京支店の開設のときなども、需要があるのに販売拠点がないたため、他社に押えられているということを進言したら、即座に「君すぐ金を準備してくれ、支店を出すから」ということもありました。

河合 社長の事業もすべてがうまくいったわけではなく、いわゆる撤退作戦もあったのですが、そのときに少しも未練がましいことをおっしゃったり、ぐずぐずなさらないで、すばとおきめになりましたね。北炭観光に譲った札幌のホテルにしても、その衝に当たっていた私たちは、ときどき惜しいことをした、というようなことを口走るのですが、社長は一言もおっしゃらない。そういうことに対して、決断が早く、きれいで、泣きごとをおっしゃらない方でしたね。

*事業にうちこむ

本誌 秘書の方からみて最も印象深いことは？

星野 私は社長の車の運転をしていたのですが、熱海の別荘に行ったとき、社長とご一緒に野天風呂に入り、文字通りの裸で、ざっくばらんな話を

したことがあります。そのとき合理化につながる一つの意見を申しあげたら、さっそく実行されましたが、われわれ末端の人間の小さいことでも聞いてくださることに、ほんとうに感激しました。

井手 社長は社員の一人一人をよく見ておられましたね。悪かったときなんか、癪をたてられ、ひどくおこられる。そのあとでぼくを呼び、「今日こういったことで、あれをひどく叱ったけれど、本人しょげているようだったら、あのときは言い過ぎたかもわからんから君からその点うまく言って、しょげないよう、気を落さないように注意してくれよ」といったことをよく言われた。こういう点を見ると、下の人をよく見ておられたし、何とかして引き上げてやろうというような気持ちが、しょっちゅうあったようですね。

福島 リコーが不況から立ち直った頃の話ですが、あるとき社長室で、「この頃会社全体が明るくなった。よかったね」というお話から、「あのときはほんとうに自分は死のうと思った。自分には子供はないが、従業員とその家族のことを考えたら、死ぬなんてことはできなかった。死ぬことを考えるくらいなら、どんなことでもできると、自分にいいかせて頑張ったが、みんなも苦しいのを我慢して、今日までよくついてきてくれたから、会社もここまで来た。いま考えてみると、あのとき死なずにいてほんとうによかったと思うよ」と涙を浮かべて話されました。私も一緒に涙をこぼして社長のお話をうかがったのを、まだきのうのように思い出します。

三橋 私が社長のおそばに来たのは、会社も安定したムードになった頃ですが、「社長というのは孤独だね」とおっしゃって、よく考えこんでおられました。「ゆうべも眠れなかったんだよ」とおっしゃって、社長室でうとうとなさることも度々でした。

また社長のスケジュールは朝から夜までびっちり、全然息を抜くひまもないんですもの。「社長は忙がしくてたいへんですね」と申しあげると、「しょうがないよ。人を愛し、国を愛し、仕事を愛しの主義でやっているんだから。このくらい平

気だよ」とおっしゃって……。 (笑) それでもにこにこしながら出かけられたりして……。

斉藤 ご自分でも認めておられましたが、人と話しているか、ものを読んでいるか、ものを考えているか、とにかくじっとしておられないご性格でした。

井手 さっきの予定がびっしりという話ですが、ある程度秘書課のほうで濾過しようということ建言したところ、おこられましたね。(笑)「君は何ということをするのだ。おれは貴賤の別を問わずだれとでも会う。会ってよく話を聞くのだ。それを君が勝手にそんなことをするのはけしからん」ときびしいですよ。

三橋 お会いになるのはいいんですが、お話はずんで、次の予定までくいこんじゃうんです。裏ではらはらすることが多くて……。

斉藤 歓待精神に富んでおられましたね。(笑) さきほど夜も眠れないという話がありましたが、出張先で夜2時頃になってもおやすみになれず、ブランデーを持ってきてほしいと言われたことがありました。ところが地下のバーは閉っている。ホテルのナイトマネージャーをたたき起して、倉庫から持ち出したこともありました。(笑)

星野 それから38年の秋だったと思いますが、行政審議会の委員をお引き受けになったとき、中央郵便局の見学に行かれたことがあります。そのとき、「郵便の分類を1枚づつ棚に入れているが、そういう非効率なことでは困る。機械を購入して、機械で分けろという案を出した。それが通らないなら、おれはやめるぞ」とおっしゃっていましたが、やはり先見の明があるのですね。やっと最近、郵便番号を書くということで、その実現が近づいてきましたね。

斉藤 先を見とおされる力は非常にすぐれておられましたね。

*相撲は大鵬、映画は「二丁鉄砲」

本誌 社長は仕事のほかにはどんなことがお好きでしたか。

三橋 お相撲がお好きだったようですね。場所

が始まると、飛んで帰って、社長室に入るなり、「すぐテレビをつけろ」とおっしゃる。大鵬の大ファンで……。

中井 前は千代の山をひいきにしておられ、枱席によく行かれましたね。

星野 車の中で、必ず「今日の勝負は」と聞かれますので、一々記録をとっていました。まず第一声は「大鵬はどうか」でした。

福島 映画もお好きでしたよ。映画で一ばん好きなのは西部劇でした。「二丁拳銃」と言わずに「二丁鉄砲」とおっしゃる。(笑)

井手 映画を見るにしても、見方が違っていましたね。画面はこれこれを言っているのだというような見方をしておられましたね。

斉藤 映画をみても、テレビをみても、ただ漫然とご覧になるのではなく、そこから何かを得ようという見方でしたね。2歳の幼児からも学ぶことがあるとおっしゃっていました。

星野 将棋のお相手は大阪の村山先生ですね。

井手 そばで見てると、口げんかをしているみたいです。(笑)

斉藤 攻撃は最大の防御なりというタイプの将棋でしたね。

星野 飛車落ちでやったのですが、最後の一手でどうしても負けますね。

斉藤 私も飛車落ち角落ちでやったことがありますが、負けてしまう。(笑)こちらが下手なのですが、強いものでした。

星野 家庭的な勝負ごとが強かったようですね。

中井 社長は理詰めでやるせいか、将棋、マーチャンでもそうだし、パチンコもうまかったですね。

本誌 どこでやられるんですか。

中井 出張先の名古屋でね。それとか魚釣りでもうまかったですね。

それから話はちょっと脱線しますが、私がリコーの製造部長の頃ですから相当昔の話になりますけれど、湯河原で部課長の忘年会があった。私は社長のそばにいたので、お手洗についていったのですが、手が不自由なものだから、芸者の差出し

たハンケチで手をふき、返すとき落された。それが崖の方だったから拾いにも行けない。社長は「中井、金もっているか」

「五千円札しかありませんが……」

「それを貸せ」

「何にするのですか」

「ハンケチ代にやれ」と言われた。当時の五千円は大金ですから、「じゃあ小さいのと替えてきます」

「いいから、それをやれ」ということになった。私が惜しいなあというような顔をしていたせいか、

あとで「中井、ハンケチ代としては高いけれども、

リコーの社長はケチだといわれるのも、お前たち情けないだろう。こうしておけば彼女はあちこち

で話す。宣伝代だと思えば安いじゃないか」と教えられたとき、そのよみの深さに驚きました。

反面、非常に質素な方でしたね。蛇口から水がもれていると、自分でとめたりしておられました。

斉藤 1円の金も1000万円の金も同じように使えることが大切である、とおっしゃっていたことがあります。

井手 お湯を沸かすにも、魔法びんのお湯を入れて沸かせというようなことも言っておられましたね。

星野 話ほもどりますが、高校野球もよくご覧になっていました。去年の沖繩のときなんか、社長は「負けたけれども、悔のない試合をした」とテレビの前で、拍手を送っておられました。

斉藤 おこられるときも喜ばれるときも感情がすなおに出ていましたね。(笑)

*よく叱られる

本誌 おこられたことはありますか。

井手 そりゃもうしょっちゅうで「お前なんかもうやめちまえ」と神経がびりびりするほどおこられたことが何回もある。(笑)理由のないときは「お前の報告の仕方が悪い」ということになって……。 (笑)でもあとはケロッとされちゃうんだよ。

星野 私がよくおこられたのは、車の出し入れ

ですね。出るときに車がすぐ前に出てないときはおこられた。三橋さんも知っていますが、すごいおこりょうなんですね。ちょうど雷が落ちたような……。(笑)

河合 ぼくは三愛石油の時代ですが、熱海の別荘に神立常務と呼び出され、ひどく叱られました。帰り道、私がしょげていると神立さんが上手に慰めてくれました。「社長によく叱られる人はいいんですよ、河合さん。かわいいからですよ」といわれて、なるほど井手さんはじめよく叱られる人は信頼のあつい方ばかりだ。私も叱ってくださる中に入ったと思って、少し気が休まりました。

中井 一ばんこたえたのは、カメラの製造部長のとき、部長会議の席上で「カメラの赤字は中井と小野と吉田与八の責任だ。黒字にできなければ責任をとらせる」と言われたときで、びくっとしましたね。

反対に私だけおこられないという特権もありました。海水浴に行ったとき、葉山の寮で、スイカを食べていたら、寮のおじさんが「中井さん、車が混むからすぐ出なさい。あと始末は私がしておくから」と言うので、そのまま帰った。入れ違いに社長と奥さんと井手さんが一緒にこられ、「あと始末をしない会社はどこか。だれが引率者だ」と雷が落ちそうになった。ところが、理研光学の中井だということがわかった。「あいつは大陸におったからしょうがない」ですんだそうです。あとで井手さんから、「中井君、君はいちばん幸福だぞ。あんなことをしたら、だれでも目の玉が飛び出るほど叱られるのに、中井ならしょうがないですむんだから」と羨ましがられた。

齊藤 社長には招かざる客が非常に多かった。秘書課にまいる半ばで半年ぐらいのときでしたか、その来客の応接の仕方を間違えまして……。あとで気がついたら、冷汗でYシャツまでびしょりになっていました。(笑)

福島 お話が長びいているが、もうお帰りになるだろうと思って、お茶の入れ替えをしなかったときとか、予定時間を大きく過ぎても気付かれないお客様のとき、「『次のご予定が』ぐらいは言っ

て、気をきかせろ」といったご注意は受けましたが、15年お仕えしている間、声を荒げてどなられたということは1回もありませんでした。

井手 女の人をおこるときは、とてもやさしいんだ。男ばかりひどくおこられて……。(笑)

福島 でも、どちらの奥さんかは存じませんが、何かで社長に会いに来られたとき、秘書室のドアがびりびりし、みんなの腰が浮くほどのすごい声でどなられたことがありましたね。

河合 それはぼくが総務担当のとき、思想上の問題で処分した人の奥さんで、社長にまで抗議を申し込んできたんです。

福島 あとで「びっくりしただろう」とおっしゃって、「みんなびっくりしました」と申しあげたんですが……。

河合 腹の中ではちゃんと冷静で、こう言わなきゃこの解決がつけられんということをお考えの上で、おやりになったんです。だからそれで解決できましたよ。

*昼食はそばかラーメン

本誌 日常の生活ぶりはいかがでしたか。

井手 仕事のことばかり考えておられたので、食事の観念はなくなっておられましたね。ときどき2時から3時になって、「ああ、おながすいた。そばでもくおうか」ということで、よくお供しました。

福島 28年頃、銀座の親和ビルに社長室があったとき、たまたまいつもとそば屋の本店が休みだったので、支店からとったことがあるんです。すると翌日、「今日のそばは違う。きのうのほうがうまい。同じところか」と言われる。「きのうのは支店ですが、器がちょっときたないので、いつも本店からとっているんです。と言いますと、「器なんかどうでもいい。うまい方がいいから支店からとりなさい」といわれましたが、味はよくわかっていらっやいましたね。

齊藤 そばで思い出すのですが、お伴をして外に出たとき、お昼にそば1ばいでは足りないわけです。そのところは社長よくご存じで、必ず

「2はいたべたらどうだ」と言われました。(笑)

福島 私も一緒におそばを食べに行って、「2枚は食べられないから、1枚半づつ食べようとおっしゃって、半分づついただいたことがあります。

河合 お料理の味については、鋭敏でしたね。ホテルに関係していた頃、料理の味をずい分みてもらいました。

福島 それから中華料理もお好きでしたね。

星野 果物や、いもの煮ころがしが、大変お好きだったようですね。

三橋 銀座では、ほとんどラーメンでしたね。毎日毎日よくまああきないと思えるくらいみそラーメンばかりめし上っていました。

井手 外国に行ったときも、招待の料理は苦手だ、とおっくうがっておられました。それで自分たちで食べに行くときは、たいてい支那料理屋でした。

河合 あれだけの大社長としては、生活はご質素でしたね。ある実業界の人で、市村社長は非常な実力者だから、もっと豪華な邸宅にいらっしょと思ったら、案外質素だという感じがしたと言われた方もありました。

* やさしい思いやり

本誌 社長の思いやりの深さには、皆さん覚えがおありでしょう。

井手 仕事が終わってホテルとか旅館に帰って、いろいろお話をするときには、こちらが遠慮したくなるほど気を使われるんです。人間同士1対1で話をしようと言われるし、仕事を離れたら、やさしい人でした。

斉藤 出張先で、あるお客様のところへ伺っており、ちょうどお昼どきで、社長はご馳走になられ、私は外でお待ちしていたことがあります。用事を済ませ、戻ってこられたとき、「君、ごはんは食べたか」と聞かれました。「まだ食べておりません」と返事をいたしますと、「あそこの主人は気がきかない」とおっしゃる。そんなところまで気を使っていただけなのかと思うと、うれしかったですね。

星野 42年頃の不況時代、よく銀行回りをされましたが、銀行の開く9時5分前から始まるんです。5、6行回ると2時頃になるんですが、車を丸の内駐車場へ入れ、丸ビルで、おそばとアイスクリームをよく一緒に食べました。われわれの食事まで気を配ってくださるということは、ありがたかったですね。

中井 終戦直後の頃、理研光学の王子本社で、社長に面会にきた人が、営業所のオーバー掛けに掛けておいたぼくのオーバーを持って行った。シベリアの捕虜から釈放されたばかりで、オーバーはそれ1枚しかない。翌日社長が「中井君、オーバーはどうした」と言われるから、「実は、きのう社長をたずねてきた何とかいう経済研究所長に持って行かれました」というと「じゃ、おれのをやろう」といって、私のより数倍いいのをもらったことがあります。(笑)

井手 ニューヨークのホテルでのことですが、3時頃まで報告その他を書いて、寝坊したことがあるんです。社長それを知っておられたので、そっと寝かせておいてくださったのですね。やっと眼がさめ、あわてて隣室をノックして、「すみません。寝過ぎてしまって」と詫びると「いや、いいよ、いいよ、君疲れているんだろう。けさはよくが君の分まで注文しておいたから」と言われる。すっかり恐縮しているところへ、朝めしが来たが一人分しかこない。「それじゃ、交換手の奴、おれの英語がわからなかったのかな」でおしまいになりましたが、そんなにまで気を使ってくださいましたね。

三橋 社長がおそくなると、私たちもそれにつれておそくなりますでしょ。そうすると、必ず「残業手当はもらっているかい」とおっしゃるんです。それから「ご苦労さま」と必ずおっしゃる。守衛さんにも「ご苦労さん」と欠かさずおっしゃっていました。

またちょっとひまができたときなど、奥様に電話して、これから一緒に映画を見に行こうときそっていらっしょいました。

河合 36年の1月、三菱石油の庶務課長だった

佃さんが、不幸にしてガンで亡くなりました。航空局からこられて間もない方です。遺族の焼香のときには、だれでもお気の毒で涙ぐむものですが、特に小学校入学前の可愛い男の子が、霊前に、もみじのような手を合わせて、合掌した姿を見られて、社長は涙を流しておられたようです。

葬儀から帰ってくるなり、私をお呼びになって、

「子供は何人あるのか」

「女の子一人、男の子一人です」

「これから困るだろうから、ぼくが学資のめんどろをみる」と涙ぐんで、言い出されました。これがももで、三愛会の加盟会社すべてに適用される市村遺児育英制度ができたのです。

*花を愛するものは平和を愛する

星野 社長は花とか植木とかがお好きでしたね。お屋敷のお庭に四季を通して花がありました、とてもきれいです。

福島 社長室には毎週お花を生けておりましたが、お花もはでやかなのがお好きでした。お誕生日には毎年カトレアの花を花びんにさしてあげていたのですが、ほんとうに喜んでくださって……。また冬になると、社長の机の上に白いフリージアを生けておきましたが、ああいう香りの高い花もお好きで、「いい香りだね。冬中ぼくの机にはフリージアの花を置いてくれよ」とおっしゃっていました。

河合 こんどの「三愛会誌」は社長の追悼号として編集していますが、表紙は奥村土牛先生にカトレアを書いていただいております。あなた方が誕生日にカトレアをお贈りしていたということで、追悼の意を表するのにふさわしいですね。

これは聞いた話ですが、マイアミ市には非常に貢献されて、名誉市民になられたのです。最初は花を寄付することになって、そのとき市長が「どうして花を寄付してくださるのですか」と聞くと、即座に「花を愛するものは平和を愛するからだ」と言われたので、市長はたいへん感激されたということです。

井手 そのとき私がついていったのですが、最

初は桜を300本寄付するということでした。アメリカは桜ばかりでなく植物自体に虫がつきやすい。植物の輸入検査がとてもきびしく、許可されないというので、いろいろ研究した結果、東洋の原産であるオーキッドがいだらうということで、オーキッドにしました。桜の贈呈状はワシントンの国会議事堂で、フロリダ州選出の代議士に日本古来の巻物にして渡しました。その後日本庭園まで寄付されましたが、それがイチムラパークと呼ばれ、日米親善に大いに役立っています。

斉藤 思えば9月に社長が村山先生の回生病院のドックに入られた日、病院の近くに日本でも有名な蘭の温室があるのですが、そこへ奥様とご一緒に行かれ、蘭の鉢を数鉢買ってこられました。蘭もお好きでしたね。

*最後の思い出

本誌 最後におめにかかった時のご様子は？

河合 ぼくは11月28日慶応病院の病室に、三愛会の幹部の方数人で呼ばれ、「当分回復がむずかしいと思うから、こうこうしろ」というご指示をいただきにありがとうございました。そのときには非常にやせておいでだし、声もかすかですし、お話をうかがうのがお気の毒のように思えたのですが、そういうご衰弱の中にも、グループ全体の発展を、いかにすべきかという熱意が、あの病弱のからだから溢れ、われわれ自分の力の及ぶ限り、全身全霊を傾けてしっかりやらねばという決意を新たにしましたね。それが最後でした。

福島 実は私、6月の末に交通事故にあい、ずっと入院しておりました。事故にあって10日目ぐらいに、社長がご自身で、入院生活は自分も体験しているが、一ばん慰められたものはテレビだと、ご自分でテレビを買って、私の病室にお見舞にきてくださったのです。私も退院したので、早速ご挨拶にうかがったのが10月の第1日曜日でした。そのとき社長は大阪のドックから帰られて、ご自宅で静養なさっておりましたが、「元気になってよかったね」とおっしゃってくださいました。「社長いかがでございますか」とお尋ねしますと、

「ぼくも少し太ったろう。もうぼくのごことは心配しないでいいから、自分のからだを一日も早くなおすように」とおっしゃってくださって……。それが私が社長とお話しした最後でした。

三橋 私は11月5日の運動会が最後でした。「しばらくだね」とおっしゃっていただきました。もっとやつれていらっしゃるかと思っていたのですが、思ったよりもお元気で、お声もしっかりしていらっしゃったので、安心していたのですが……。

河合 社長にもっともって長生きしていただきかった気持は、だれしも同じですが、これが仏説でいう寿命というもので、やむを得ないものとすれば、最後にあの運動会に、あんなほがらかな顔をして、喜んでくださったことは、せめてものわれわれの慰めだと思います。

三橋 ほんとうに喜んでいらしゃいましたね。大きな声でお笑いになって……。

井手 ぼくはずっとついていたので、最後の印象というよりも、9月30日に大阪にお見舞したときのことが印象的です。

そのとき社長は病室で、経営者はどうあるべきかということについて8ヵ条をあげられ、1時間半にわたって、諄々と説かれるんですよ。この手帳に書いてありますが、あとでおかしいという気がいたしました。その頃から今度の病気はあるいはと、どこかで考えておられたのかもしれないね。

*感謝のことば

本誌 それでは結びに市村会長に最も感謝すること、あるいは最も学ぶことを、一言ずつお願いします。

三橋 私個人のことなんですが、主人に先立たれて困っているとき、社長の方から「自分のところへ来ないか」とおっしゃっていただいたのです。ですから、社長の遺された事業で、私でも役立つことがあれば、一生懸命尽していきたいと思っています。

中井 シベリアから引き揚げて、すぐに社長を浅草橋の三愛にたずねたら、「よく帰ってきてく

れた。お前たちのために三愛をつくっておいたのだ。元気でよく帰ってきてくれた」といわれたときは涙がでました。これからどうなるだろうと心配していたものが一ぺんに吹き飛んで、本当にうれしかったですね。

河合 今年で24年、その間ポストはいろいろ変えられましたが、私が働きいいようなところに使ってくださいましたことに対して、私はじめ家族一同、心から感謝としあわせな気持で一ぱいです。

斉藤 おやじ以上のおやじともいえるほど、敬愛してきました。いろいろな点を教えて下さり、また実際に学ぶことができたこと、そして公私にわたり大変お世話になったことを心から感謝しています。

福島 この15年間、社長は申すに及ばず奥様ともども、ほんとうに暖かい心づかいをいただいたことは、私はじめ私の家族全員でいつも感謝しておりました。今後も社長のご遺志の万分の一にも沿うように、一生懸命働いていきたいと思っています。

星野 38年社長の車の運転を命ぜられてから5年10ヵ月、ほんとうに可愛がっていただきました。何でも相談しろと言われ、私も甘えて、社長に何でもお話ししたり、またいろいろとご指導もいただき、感謝の気持で一ぱいです。社長はよく「成せばなる。努力しなければ何ごとでもできない」とおっしゃっていましたが、この言葉を身につけていきたいと思っています。

中井 それはすべてのことに貫ぬかれておりますね。そのほか学ぶことは沢山あり過ぎて……。

井手 長いあいだいろいろ社長の教えを受け、また公私ともに、とっても可愛がっていただいて、ほんとうに第2の父のように思っていました。

今後は、長いこと社長の薫陶を受けたことを一つ一つ思いおこして、亡き社長の期待に答えるべく、グループの事業全体の発展に役立つようになっていきたい。それが社長に対するご恩返しだというふうに考えております。ほんとうに何と申しあげていいか、すべてが感謝そのものです。

本誌 ありがとうございます。